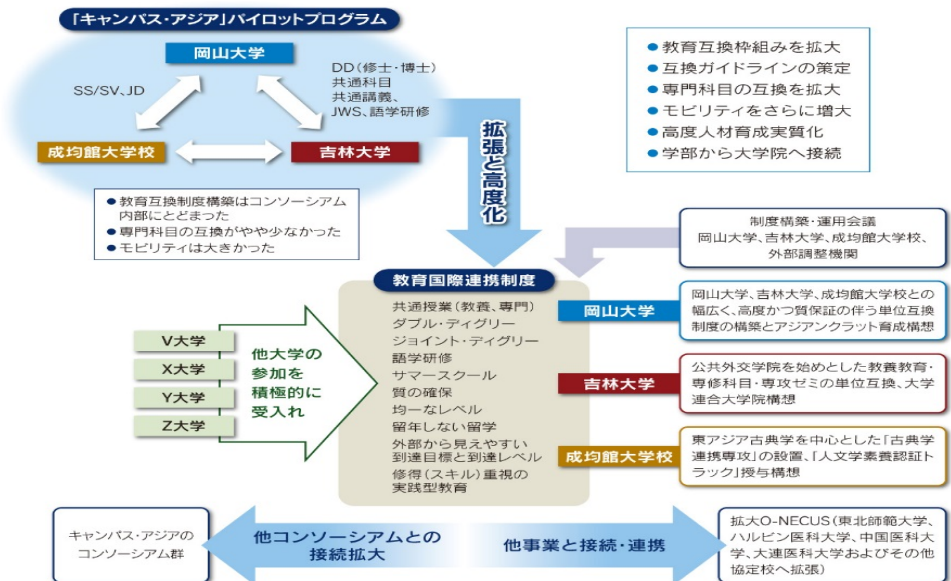


大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 岡山大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))
東アジア高等教育圏を見据えた中核的高度実践人＝アジアクラット育成プログラム

【事業の概要】

本事業は、5年～10年先を見越した中長期的スパンで相互の教育連携を行うことで、将来東アジアを舞台に国際的に活躍できるグローバル人材を共同で育成し、現在の日中韓関係に存在するさまざまな課題を越えて、将来へ向けた人材育成に資することを目的とする。



【交流プログラムの概要】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校が、パイロット事業で結成したコンソーシアムを活用し、日中韓の間で高い学生モビリティを可能にするアジア高等教育交換制度の整備・運営、国際的な教育・評価・教務制度の整備により共同教育環境の構築を推進する。教育面では実践型スキルを含み、留学やインターンシップと連動した習得重視、吉林大学の国際連携大学院構想、成均館大学校の学部から大学院へつながる古典学課程の展開などと連携した高度で先進的教育内容、教育機関や国が異なっても維持される均質な教育レベル、到達レベルが外部から把握しやすく質保証と直結した客観的で厳密な評価、幅広い単位交換を実現する教務制度を確立する交流プログラムである。

【本事業で養成する人材像】

本プログラムで目標とするアジアクラットは、母国語と英語プラス地域言語の運用能力と教養および専門知識を備えた中核的職業人である。さらに個人として学業・就業において活躍するとともに、地域における課題に取り組み、国内外とも連携してさまざまな分野でリーダーシップをとれる人材である。

【本事業の特徴】

本事業は、従前からの二大学間交流の実績をもとに展開してきた主に文系の部局間交流から、コンソーシアム全体の連携と分野を拡大するため、医歯薬系、自然系も含めた多様な背景と専門を持つ学生、教員による全学的、学際的交流事業への発展を目指している。これらを円滑に計画、実施、評価するため、2017年2月の岡山大学でのキックオフミーティングをはじめ、3大学間での学長および教員フォーラム、学生交流会議を定期的に行い、コンソーシアム内の協力を強化している。また、日中韓のコンソーシアム内のみならず、アジア全域からグローバルな展開を視野にアジアクラットの育成および国際人材交流ネットワークの拠点となることを目指している。岡山市は持続可能な開発のための教育(ESD)を推進しており、本事業でも地域に根差した持続可能な社会に向けての貢献を全学で進めていく。

【交流予定人数】

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)での受入	C 20	C 27	C 27	C 35	C 35
	K 20	K 28	K 28	K 35	K 35
中国(C)での受入	J 20	J 27	J 28	J 35	J 35
	K 10	K 20	K 20	K 20	K 20
韓国(K)での受入	J 20	J 28	J 27	J 35	J 35
	C 5	C 5	C 5	C 5	C 5

1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))
東アジア高等教育圏を見据えた中核的高度実践人＝アジアクラット
育成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成28年度の派遣では、ほぼ想定通りの学生のモビリティを実現した。アジアクラット育成交流(半年から1年間の交換留学)の参加学生数は中国2名、韓国4名である。短期交流では、語学文化研修により中国11名及び韓国12名、中韓ワークショップ17名、環境生命系プログラム3名の計49名が参加した。

○ 外国人留学生の受入

平成28年度の受入においても、ほぼ想定通りの学生のモビリティを実現した。アジアクラット育成交流の参加学生数は中国4名、韓国9名である。岡山大学での集中講義、語学文化研修及びナノバイオコースにより中国15名、韓国37名の計52名を受け入れた。

(中韓ワークショップ:成均館大学生と学生交流)



	H28
日本(J)での受入	C 15 K 37
中国(C)での受入	J 33 K 15
韓国(K)での受入	J 33 C 4

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

パートナー校とは、以下の大学間交流の枠組みについて合意している。

1. 日中韓三国の交流の裾野を支える、高いモビリティの確保。
2. 共同教養教育を踏まえ、専門教育連携を高める教職員交流の活性化。
3. 専門教育での共通教育を実現するための早期語学習得システムの開発。
4. 日中韓三国協力事務局との連携など国際インターンシップなどの開発。
5. 人文・社会系、医歯薬系、環境生命科学系や自然科学系のプログラム開発。
6. ダブル・ディグリーの実質化とジョイント・ディグリーへの橋渡しプログラム開発。
7. 上記の交流活性化による、国際連合大学院構想の推進。



(自然系プログラム:吉林大学植物
科学学院視察の様子)

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

吉林大学と成均館大学校は協定校であり、受入人数、授業料免除、宿舍提供、奨学金支給の互惠主義を協定で合意している。受入、派遣共に募集には十分な期間をもって周知、留学経験者から候補学生に情報共有し、担当教員が個別相談による参加学生の準備を支援している。

本学の全学センターであるグローバル・パートナーズを中心に、関係教職員の密接な連携により、全学で派遣および受入業務、対応を行っている。受入留学生は日本人学生と共に授業に出席し、日本人学生をパートナーとして一人ひとりにつけ、個人的な交流を行い、語学授業や語学課外活動であるL-caféに参加し日本人学生や他国留学生と交流している。また、学生寮、特にシェアハウスへの入居により、同室の日本人等、寮内での交流ができる環境が整っている。派遣学生には、ガイダンスや面接による情報提供や健康相談、リスク、就職との関係、各種奨学金の説明、留学スケジュールの説明を行っている。派遣後の月間報告書提出を必須とし、留学担当教職員によるメール等によるフォローも行っている。治療、傷害に対応する保険に参加学生全員が加入している。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況・情報の公開、成果の普及

岡山大学では、スーパーグローバル大学に向けての大学改革推進のもと、学生交流と国際的な教育連携を通して、国際的に活躍できるグローバル人材の育成に力を入れている。本事業は本邦の教育の国際化、将来へ向けた人材育成へ資すると共に本学の教育の国際化を大きく推進させる事業である。全学センターであるグローバル・パートナーズが事務局として、キャンパス・アジア事業が全学的に周知され、各部局と留学生派遣及び受入の推進に関する課題を共有し、多方面の意見を反映しながら事業を進めている。

事業に関する情報は、ホームページにより日本語および英語で国内外に事業内容、進捗、成果を発信すると共に、協定校の吉林大学と成均館大学校とのリンクを設定している。ホームページの定期的な更新に加え、フェイスブックも開設し事業内容の情報発信を随時行い、より多数の人々へ情報提供している。

■ グッドプラクティス等

- 従来、人文社会科学系と医歯薬系が中心であった交流について、環境生命系の交流を加えることになり、新しい交流分野開拓により、アジアクラット育成をさらに広く展開する道が開けた。
- 平成28年度より、従来の受入ガイダンスに加え、新たに「ハラスメント講習」を加え留学生受入時のガイダンス内容を一層充実させた。
- 英語を主体とした学生の受入を開始し、プログラムにより広い可能性を付加した。

2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【東アジア高等教育圏を見据えた中核的高度実践人＝アジアクラット育成プログラム】
(選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))

■ 交流プログラムの実施状況

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成29年度の派遣では、想定通りの学生のモビリティを実現した。アジアクラット育成交流(半年から1年間の交換留学)の参加学生数は中国6名、韓国3名である。短期交流では、語学文化研修により中国9名及び韓国12名、中韓ワークショップ21名、短期ナノバイオコース5名の計56名が参加した。

○ 外国人留学生の受入

平成29年度の受入においても、計画通りの学生のモビリティを実現した。アジアクラット育成交流の参加学生数は中国9名、韓国7名である。岡山大学での集中講義、語学文化研修、ナノバイオコース、先端医療応用コース、薬学部ダブルディグリーにより中国22名、韓国34名の計56名を受け入れた。



(スプリング・スクール:ワークショップ)

	H29
日本(J)での受入	C 22 K 34
中国(C)での受入	J 36 K 5
韓国(K)での受入	J 35 C 13

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

パートナー校とは、以下の大学間交流の枠組みに基づいて事業に取り組んでいる。

1. 日中韓三国の交流の裾野を支える、高いモビリティの確保。
2. 共同教養教育を踏まえ、専門教育連携を高める教職員交流の活性化。
3. 専門教育での共通教育を実現するための早期語学学習システムの運用。
4. 日中韓三国協力事務局との連携など国際インターンシップなどの実施。
5. 人文・社会系、医歯薬系、環境生命科学系や自然科学系のプログラム開発。
6. ダブル・ディグリーの実質化とジョイント・ディグリーへの橋渡しプログラム実施。
7. 上記の交流活性化による、国際連携大学院構想の推進。



(三大学交流フォーラム開幕式)

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

吉林大学と成均館大学校は協定校であり、受入人数、授業料免除、宿舎提供、奨学金支給の互惠主義を協定で合意している。受入、派遣共に募集には十分な期間をもって周知、留学経験者から候補学生に情報共有し、担当教員が個別相談による参加学生の準備を支援している。

本学の全学センターであるグローバル・パートナーズを中心に、関係教職員の密接な連携により、全学で派遣および受入業務、対応を行っている。受入留学生は日本人学生と共に授業に出席し、日本人学生をパートナーとしてつけ、個人的な交流を行い、語学授業や語学課外活動であるL-caféに参加し日本人学生や他国留学生と交流している。また、学生寮、特にシェアハウスへの入居により、同室の日本人等、寮内での交流ができる環境が整っている。派遣学生には、ガイダンスや面接による情報提供や健康相談、リスク、就職との関係、各種奨学金の説明、留学スケジュールの説明を行っている。派遣後の月間報告書提出を必須とし、留学担当教職員によるメール等によるフォローも行っている。治療、傷害に対応する保険に参加学生全員が加入している。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開、成果の普及

岡山大学では、スーパーグローバル大学に向けての大学改革推進、また、大学の中心戦略である「持続可能な開発目標(SDGs)」推進に向けて、学生交流と国際的な教育連携を通して、国際的に活躍できるグローバル人材の育成に力を入れている。本事業は本邦の教育の国際化、将来へ向けた人材育成へ資すると共に本学の教育の国際化を大きく推進させる事業である。全学センターであるグローバル・パートナーズが事務局として、キャンパス・アジア事業が全学的に周知され、各部局と留学生派遣及び受入の推進に関する課題を共有し、多方面の意見を反映しながら事業を進めている。

事業に関する情報は、ホームページにより日本語および英語で国内外に事業内容、進捗、成果を発信すると共に、協定校の吉林大学と成均館大学校とのリンクを設定している。ホームページの定期的な更新に加え、フェイスブックにより事業内容の情報発信を随時行い、より多数の人々へ情報提供している。

■ グッドプラクティス等

- 従来の人文社会科学系と医歯薬系に加えて、環境生命系の交流事業も始まり、全学的にアジアクラット育成を進めている。
- キャンパスアジア修了要件を設定し、共通科目として東アジアリーダーシップ論を開講、また、大学院レベルでの英語による学習に対応できる体制を整えた。
- 薬学系において、共同研究を基盤とする博士学位ダブルディグリー・プログラムを開始した。

3. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【東アジア高等教育圏を見据えた中核的高度実践人＝アジアクラット育成プログラム】
 (選定年度28年度・(タイプA-①) CAMPUS Asia)

■ 交流プログラムの実施状況

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成30年度の派遣では、想定通りの学生のモビリティを実現した。アジアクラット育成交流(半年から1年間の交換留学)の参加学生数は中国6名、韓国9名である。短期交流では、語学文化研修により中国11名及び韓国12名、中国研修2名、中韓ワークショップ(中国)9名、中韓ワークショップ(韓国)4名、短期ナノバイオコース(韓国)6名、研究室交流(韓国)1名、KSLEP(韓国)5名の計65名が参加した。

○ 外国人留学生の受入

平成30年度の受入においても、計画通りの学生のモビリティを実現した。アジアクラット育成交流の参加学生数は中国11名、韓国9名である。岡山大学での集中講義、語学文化研修、ナノバイオコース、先端医療応用コース、薬学部ダブルディグリーにより中国20名、韓国25名の計65名を受け入れた。



〈 交換留学生:2018年度修了式 〉

<平成30年度実績>

	H30
日本(J)での受入	C 31 K 34
中国(C)での受入	J 28 K 7
韓国(K)での受入	J 37 C 12

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

パートナー校とは、以下の大学間交流の枠組みに基づいて事業に取り組んでいる。

1. 日中韓三国の交流の裾野を支える、高いモビリティの確保。
2. 共同教養教育を踏まえ、専門教育連携を高める教職員交流の活性化。
3. 専門教育での共通教育を実現するための早期語学習得システムの運用。
4. 日中韓三国協力事務局との連携など国際インターンシップなどの実施。
5. 人文・社会系、医歯薬系、環境生命科学系や自然科学系のプログラム開発。
6. ダブル・ディグリーの実質化とジョイント・ディグリーへの橋渡しプログラム実施。
7. 上記の交流活性化による、国際連携大学院構想の推進。



〈 東アジア・リーダーシップ論:学生フォーラム 〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

吉林大学と成均館大学校は協定校であり、受入人数、授業料免除、宿舍提供、奨学金支給の互惠主義を協定で合意している。受入、派遣共に募集には十分な期間をもって周知、留学経験者から候補学生に情報共有し、担当教員が個別相談による参加学生の準備を支援している。

本学の全学センターであるグローバル・パートナーズを中心に、関係教職員の密接な連携により、全学で派遣および受入業務、対応を行っている。受入留学生は日本人学生と共に授業に出席し、日本人学生をパートナーとしてつけ、個人的な交流を行い、語学授業や語学課外活動であるL-caféに参加し日本人学生や他国留学生と交流している。また、学生寮、特にシェアハウスへの入居により、同室の日本人等、寮内での交流ができる環境が整っている。派遣学生には、ガイダンスや面接による情報提供や健康相談、リスク、就職との関係、各種奨学金の説明、留学スケジュールの説明を行っている。派遣後の月間報告書提出を必須とし、留学担当教職員によるメール等によるフォローも行っている。治療、傷害に対応する保険に参加学生全員が加入している。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

岡山大学では、スーパーグローバル大学に向けての大学改革推進、また、大学の中心戦略である「持続可能な開発目標(SDGs)」推進に向けて、学生交流と国際的な教育連携を通して、国際的に活躍できるグローバル人材の育成に力を入れている。本事業は本邦の教育の国際化、将来へ向けた人材育成へ資すると共に本学の教育の国際化を大きく推進させる事業である。全学センターであるグローバル・パートナーズが事務局として、キャンパス・アジア事業が全学的に周知され、各部局と留学生派遣及び受入の推進に関する課題を共有し、多方面の意見を反映しながら事業を進めている。

事業に関する情報は、ホームページにより日本語および英語で国内外に事業内容、進捗、成果を発信すると共に、協定校の吉林大学と成均館大学校とのリンクを設定している。ホームページの定期的な更新に加え、フェイスブックにより事業内容の情報発信を随時行い、より多数の人々へ情報提供している。

■ グッドプラクティス等

従来的人文社会科学系と医歯薬系に加えて、環境生命系の交流事業も始まり、全学的にアジアクラット育成を進めている。キャンパスアジア修了要件を設定し、共通科目として東アジアリーダーシップ論を開講、また、大学院レベルでの英語による学習に対応できる体制を整えた。薬学系において、共同研究を基盤とする博士学位ダブルディグリー・プログラムを開始した。

4. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【東アジア高等教育圏を見据えた中核的高度実践人＝アジアクラット育成プログラム】
 (選定年度28年度・(タイプA-① CAMPUS Asia))

■ 交流プログラムの実施状況

交流プログラムにおける学生のモビリティ



○ 日本人学生の派遣

令和元年の派遣では、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部派遣プログラムが中止となった。しかし、計画に近い学生のモビリティを実現した。アジアクラット育成交流(半年から1年間の交換留学)の参加学生数は中国6名・韓国8名である。短期交流では、語学文化研修により中国7名及び韓国12名・社文系中韓ワークショップ20名・環境系中韓ワークショップ(中国)5名、先端医療応用コース(韓国)4名、合計62名が参加した。

〈 交換留学生:2019年度修了式 〉

○ 外国人留学生の受入

令和元年度の受入においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部受入プログラムが中止となった。しかし受入においても、ほぼ計画通りの学生のモビリティを実現した。アジアクラット育成交流の参加学生数は中国11名・韓国8名である。短期交流では、環境系によるOU-SKKU Bilateral Symposium・科学技術体験プログラム・先端医療応用コース・協定校が同時期に日本韓国を移動するアジアエリートプログラムにより、計、中国37名・韓国11名、合計67名を受け入れた。

〈 令和元年度実績 〉

	R1
日本(J)での受入	C 48 K 19
中国(C)での受入	J 38 K 8
韓国(K)での受入	J 24 C 10

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

パートナー校とは、以下の大学間交流の枠組みに基づいて事業に取り組んでいる。

1. 日中韓三国の交流の裾野を支える、高いモビリティの確保。
2. 共同教養教育を踏まえ、専門教育連携を高める教職員交流の活性化。
3. 専門教育での共通教育を実現するための早期語学習得システムの運用。
4. 日中韓三国協力事務局との連携など国際インターンシップなどの実施。
5. 人文・社会系、医歯薬系、環境生命科学系や自然科学系のプログラム開発。
6. ダブル・ディグリー募集の継続的な実施。
7. 上記の交流活性化による、国際連携大学院構想の推進。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

協定校である吉林大学と成均館大学校とは、受入人数・授業料免除・宿舍提供・奨学金支給について、互惠主義を協定で合意している。また、受入・派遣の募集には十分な期間をもって周知し、留学経験者から候補学生に情報の共有を行うとともに、担当教員が個別相談を行い参加学生の準備を支援している。また、本学の全学センターであるグローバル人材育成院・国際部を中心に、関係教職員との密接な連携により、全学で派遣および受入業務の対応を行っている。

受入学生は、日本人学生によるパートナーと、渡日直後の必要な手続きや日常生活等を通じて個人的な交流を行っている。また、語学授業や課外活動であるL-caféに参加することによって、他国の留学生と交流できる環境も整っている。派遣学生には、ガイダンスや面接により情報提供や健康相談・リスク・各種奨学金・留学スケジュールの説明を行っている。派遣後は、月間報告書の提出を必須とし、メール等を通じ、留学担当教職員によるフォローを行っている。治療、傷害に対応する保険に参加学生全員が加入している。



〈 東アジア・リーダーシップ論:学生フォーラム 〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

岡山大学では、スーパーグローバル大学に向けての大学改革推進、および大学の中心戦略である「持続可能な開発目標(SDGs)」推進に向けて、学生交流と国際的な教育連携を通して国際的に活躍できるグローバル人材の育成に力を入れている。本事業は本邦の教育の国際化、将来へ向けた人材育成へ資すると共に本学の教育の国際化を大きく推進させる事業である。全学センターであるグローバル人材育成院・国際部が事務局として、キャンパス・アジア事業が全学的に周知され、各部署と留学生派遣及び受入の推進に関する課題を共有し、多方面の意見を反映しながら事業を進めている。事業に関する情報は、ホームページにて、日本語および英語で国内外に発信するとともに、ホームページには、協定校である吉林大学と成均館大学校のリンクを設定している。ホームページの定期的な更新に加え、フェイスブックでのリアルタイムな情報の発信を行うことにより、より多くの人々へ情報の提供を行っている。

■ グッドプラクティス等

従来の人文社会科学系と医歯薬系に加えて、環境生命系の交流事業も始まり、全学的にアジアクラット育成を進めている。

キャンパスアジア修了要件を設定し、共通科目として東アジアリーダーシップ論を開講、また、大学院レベルでの英語による学習に対応できる体制を整えた。薬学系において、共同研究を基盤とする博士学位ダブルディグリー・プログラムを開始した。

5. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【東アジア高等教育圏を見据えた中核的高度実践人＝アジアクラット育成プログラム】

(選定年度28年度・(タイプA-①) CAMPUS Asia)

■ 交流プログラムの実施状況

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、予定していた交流プログラムが中止となった。そうした中、交流を継続するために、2020年7月に実施した三大学定例会議での合意に基づいて、以下のオンラインプログラムを実施した。

- ・ 岡山大学法学部・吉林大学法学院オンライン国際シンポジウム (本学主催)
- ・ オンラインアカデミックセミナー(吉林大学主催: 10演題、本学主催: 15演題)
- ・ キャンパスアジア オンラインパイロットコース(本学提供: 2科目)
- ・ 岡山大学日本語研修プログラム オンラインセミナー(本学主催)
- ・ オンラインアカデミックセミナー: 中国古文字学の魅力(岡山大学・吉林大学共同開催)
- ・ 成均館大学韓国語研修プログラム オンラインセミナー(成均館大学主催)

<タイプA-①>

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

成均館大学校主催の韓国語研修プログラム(オンライン)に本学から13名の学生が参加し、韓国語の学習と文化交流を行った。

○ 外国人留学生の受入

成均館大学校・吉林大学交流プログラム(オンライン)へ14名(吉林大学: 6名、成均館大学: 8名)、オンラインパイロットコース(オンライン)へ15名(吉林大学: 12名、成均館大学: 3名)の学生を受け入れ、本学の学生とともに学んだ。

	R2
日本(J)での受入	C 18
	K 11
中国(C)での受入	J 0
	K 0
韓国(K)での受入	J 13
	C 5

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

パートナー校と以下の大学間交流の枠組みに基づいて事業に取り組んだ。

1. 日中韓三国の交流の裾野を支える、高いモビリティの確保
2. 共同教養教育を踏まえ、専門教育連携を高める教職員交流の活性化
3. 専門教育での共通教育を実現するための早期語学習得システムの運用
4. 日中韓三国協力事務局との連携など国際インターンシップなどの実施
5. 人文・社会系、医歯薬系、環境生命科学系や自然科学系のプログラム開発
6. ダブル・ディグリー募集の継続的な実施
7. 上記の交流活性化による、国際連携大学院構想の推進



(オンライン国際シンポジウムの様子)

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

第2期キャンパス・アジア事業において、以下の取組を実施した。

パートナー校間で受入・派遣人数、授業料免除、宿舍提供、奨学金支給等について合意形成を図り、受入・派遣を行った。

- ・ 外国人学生の受入では、渡日前から渡日直後の諸手続きを行う窓口を一元化し、手続きを一貫して行う体制を整備した。また、生活・履修オリエンテーションの実施やチューター制度などの導入により、学習面及び生活面で細やかな支援と指導を行った。さらに、担当教員が個別相談を行い、専門分野の不適合を解消し、円滑な学習を促した。
- ・ 日本人学生の派遣では、説明会の実施、ホームページやメールでの周知などにより幅広く広報活動を行い、留学を促した。派遣前ガイダンスの実施、履修指導、留学中の月間報告及び留学後の報告書の提出義務化、緊急時の対応体制の整備など留学前から留学後まで一貫して支援する体制を整えた。また、留学時には大学が包括契約をしている海外旅行保険への加入を必須とし、緊急時に備えた。

令和2年度は実留学による受入・派遣プログラムはすべて中止となったが、令和3年度の受入・派遣については通常どおり募集した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

岡山大学では、スーパーグローバル大学に向けての大学改革推進、および大学の中心戦略である「持続可能な開発目標(SDGs)」推進に向けて、学生交流と国際的な教育連携を通して国際的に活躍できるグローバル人材の育成に力を入れている。本事業はグローバル人材の育成に資するとともに本学の教育の国際化を大きく推進させる事業である。

本事業に関する情報は、ホームページやSNS等を利用して国内外に発信している。事業報告書は、ホームページで公開するだけでなく、関係機関に送付し、成果等を共有した。さらに、令和2年度に実施したアカデミックセミナーの講座は国内外の関係機関に広く周知し、実施後には講座の動画(一部)を一般公開した。

■ グッドプラクティス等

第2期キャンパス・アジア事業において、以下を達成した。

- ・ 全学的な協働体制を整え、中核的な高度実践人＝アジアクラットの育成を進めた。
- ・ 修了要件の設定、共通教科書の編纂、共通科目(東アジアリーダーシップ論等)の開講などの共通教育による日中韓の共通理解を深める取組みに加え、学部から大学院への接続を目的とした幅広い専門教育プログラムを実施した。
- ・ 薬学系における博士後期課程のダブルディグリー・プログラムで吉林大学の学生(1名)を受入れた。